

明治国際医療大学だより

News from Meiji University of Integrative Medicine

Vol.2

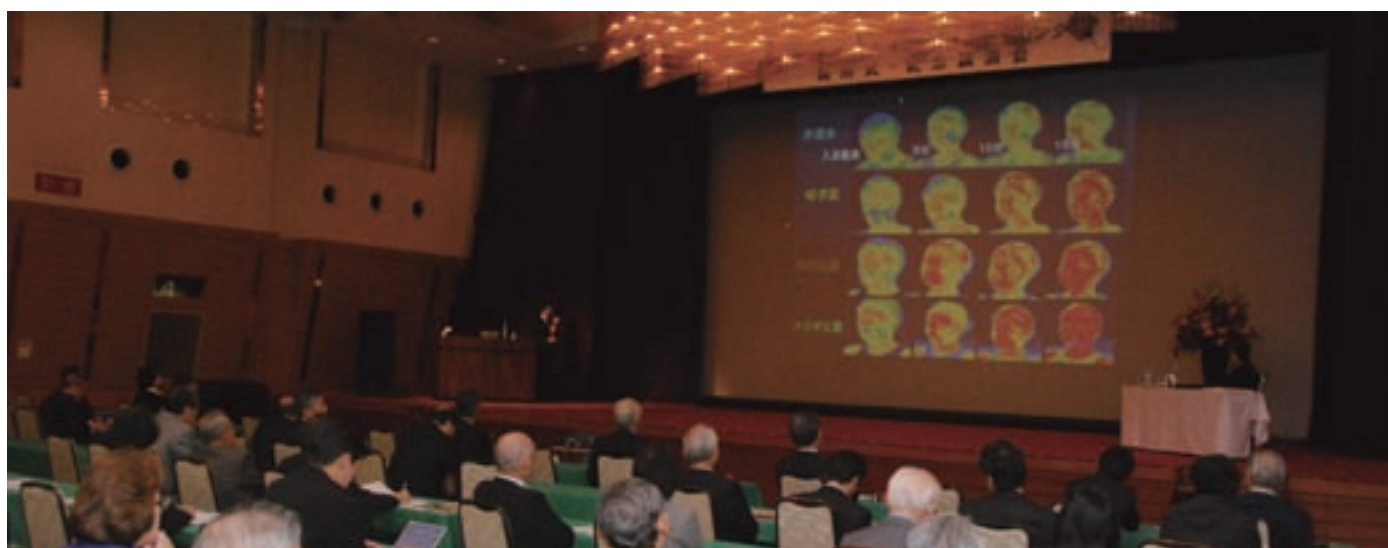
大学情報誌



附属統合医療センター開設

洛西キャンパス(京都エミナース6階)に大学附属統合医療センターが開設されました。昨秋のセンター開所式では温泉療法や「身(み)」についての講演が行われ、西洋医学や東洋医学の垣根を越えて、心身の疾病の診断・治療・予防を目指す統合医療センターにふさわしい内容でした。現代医学、漢方医学、鍼灸医学、アロマセラピーでスタートしていますが、今後、本学の特長を活かした柔道整復学や看護学、ならびに温泉療法の分野の発展が期待されています。本学の目指す統合医療の実現と学生実習のセンターをめざします。

※診療科および診療日・時間等は裏表紙をご覧ください。



医学教育研究センター

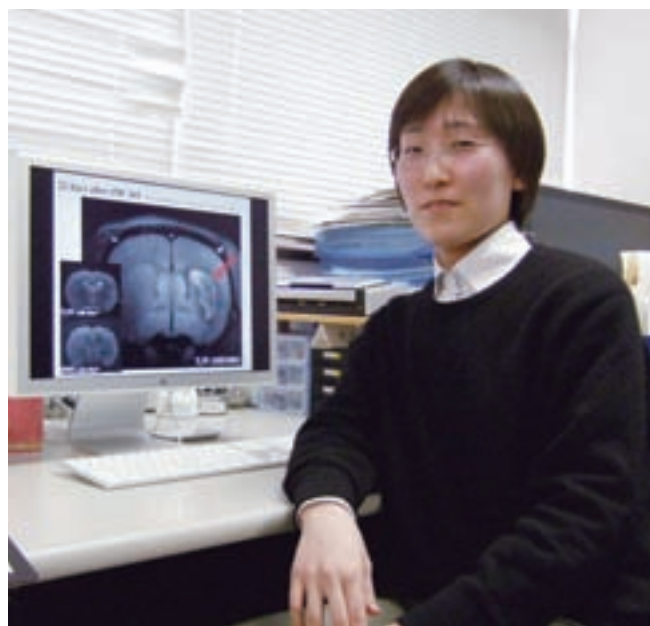
2010年2月6日 日本経済新聞夕刊に掲載されました。

医学教育研究センター 河合裕子 助教(医療情報学ユニット)

脳梗塞の後に起きる「神経膠症」の 高分解能イメージングに成功

～脳梗塞治療薬や神経再生医療の開発に貢献～

高磁場磁気共鳴画像(MRI)と細胞内に取り込まれる造影剤を用いて、脳梗塞で生じる神経膠症(グリオース)が梗塞の周辺部位で増大する様子を、世界で初めて、生きたままのラットの脳で画像化することに成功しました。これまでグリオースの発生を確認するには、死後に脳を摘出し、薄い切片を作成して顕微鏡で観察する方法しかなく、グリオースの状態を正確に把握することが出来ませんでした。この技術は、脳梗塞の治療薬や神経を再生する技術を開発する場合に、生きたままの脳に起こるグリアの集積を、100ミクロン程度の高い分解能で画像化できる点で画期的です。実験動物を用いて薬の効果を迅速に評価することが可能になるため、治療薬の開発が加速できると共に、将来的には神経幹細胞移植の効果判断、神経変性の早期発見にもつながると考えられます。この成果は、脳・神経科学において有名な米国の専門雑誌『NeuroImage』の2月15日号(49巻4号3122-3131頁)に掲載されました。



本人のコメント

今回新聞に掲載された研究は、本学と独立行政法人放射線医学総合研究所・分子イメージング研究センター、米国国立衛生研究所・国立神経疾患脳梗塞研究所との共同研究で行った研究成果です。このように横断的、国際的に研究を進めていくことは本学の研究レベルを高めるためにも必要だと思っています。また、教育的側面からも学生さんに臨床に必要な基礎研究への理解を深めてもらうなど、人材育成に役立てたいと考えています。

医療情報学ユニットでは、情報科学、医療情報学、医療統計学の授業を担当しています。医学に関する知識は、日々、急速な進歩を遂げ、新しい技術が生まれています。新しい技術の進歩に柔軟な対応ができるように、医療情報学ユニットでは、医療人に必要な幅広いコンピュータの知識や実践的なスキルの習得を目指して授業を行っています。具体的には、コンピュータとインターネットを使った様々な書類の作成、開業する際に必要な「情報発信」と「経営戦略」、セキュリティを重視した「電子カルテ技術」について学びます。その内容は、「最新の医学知識の収集」をはじめとして「根拠に基づく判断」「患者さんへの分かりやすくて確かな説明と合意」「患者さんの個人情報の適切な管理」など、臨床医学と切っても切れない関係にあります。(渡辺康晴 講師)



キャンパス内にはコンピュータが使えるネットラウンジや情報メディア教室が設置され、学生さんが自由に利用できるよう開放されています。昼休みや放課後などの空き時間には、さまざまな情報収集やレポート作成に多くの学生さんが利用しています。

鍼灸学部 鍼灸学科

「鍼灸の宇宙応用を目指す。」

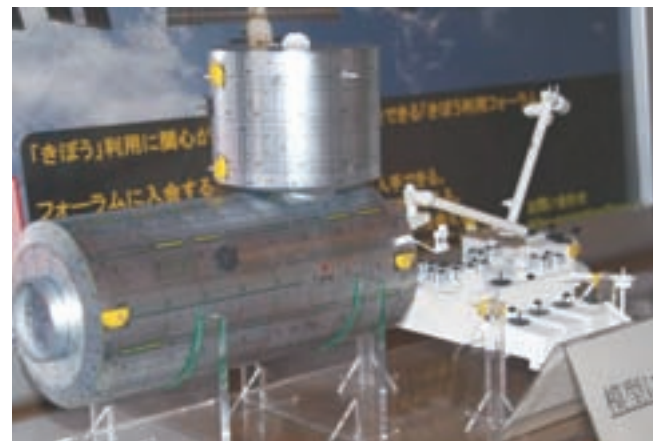
— 宇宙鍼灸科学研究会の取り組み —

臨床鍼灸学教室 准教授・JAXA宇宙鍼灸科学研究会 代表 今井賢治

地上350kmの軌道の上に国際宇宙ステーションが完成し、人類の宇宙長期滞在が現実のものとなりました。そして日本のモジュールである『きぼう』の本格利用が始まりました。そこで、私達は、宇宙で活動する飛行士の健康維持・管理を目的とした鍼灸治療の応用を目指し、『宇宙鍼灸科学研究会』を宇宙航空研究開発機構（JAXA）・きぼう利用フォーラムの研究会として発足しました。

鍼灸治療は、自律神経系や免疫系への影響、さらには疼痛緩和やストレス軽減など様々な症状に有効であることがすでに示されています。そして、宇宙飛行士が遭遇する様々な症状や病態に鍼灸を応用するための取り組みをJAXAとともに始めています。

近い将来、宇宙ステーションで鍼灸を応用するという『きぼう』に向かっています。



鍼灸学を極める

— 実務に就きながら大学院教育が受けられる —

2011年4月 通信制大学院開設

かねてより本学が設置申請していた「大学院 鍼灸学研究科 通信教育課程（修士課程）」が昨年10月、文部科学省から認可を受けました。医療系では珍しい通信制大学院の募集人員は16名（修業年限2年）で、鍼灸に関する実務経験を3年以上有する方を対象としています。履修形態としては、情報通信機器（ポータルシステム）を用いた自宅学習と、キャンパス等での面接授業（スクーリング）を併用しながら進められることとなっています。また、実務に就きながら就学する方々のため、同課程では長期履修学生制度があり、3年制コースと4年制コースが設けられています。なお、この4月には26名が入学予定で、修了生には既設の通学制修士課程と同じ「修士（鍼灸学）」の学位と、はり師・きゅう師の学校（養成施設）の教員資格が与えられます。

鍼灸学を極めるための 4つの専攻分野

伝統鍼灸学

四診法、伝統的治療法、古医書等に関する研究

鍼灸基礎医学

鍼灸刺激や刺鍼・施灸手技の生体に及ぼす効果とその機序等に関する研究

鍼灸臨床医学

内科系、外科系臨床鍼灸学における主要症状、主要疾患に対する鍼灸治療の効果等に関する研究

ヘルスサイエンス鍼灸学

予防・未病鍼灸、高齢鍼灸、スポーツ鍼灸等の鍼灸臨床の応用領域に関する研究

保健医療学部 柔道整復学科

第2回 教室紹介

「基礎柔道整復学ユニット」

担当授業科目

〈科目名〉

柔道整復基礎学 体表観察法・実習 基礎後療学

基礎柔道整復学ユニットにおいては、教育活動では柔道整復の基礎となる知識を中心に教授しています。柔道整復学概論では、柔道整復の成り立ちから現代における活動内容、柔道整復学総論では、実際に患者さんを診るための基礎知識を教授しています。

また柔道整復領域の基礎実習として包帯の巻き方、各種治療機器の使用方法などを実際の体験を通して教授しています。

基礎柔道整復学ユニットの研究活動は、柔道整復施術の効果を科学的・客観的に解析・分析し、柔道整復領域や医学領域の学会でその成果を報告しています。



教育



基礎柔道整復学ユニットでは、基礎固定学という科目で包帯実習を1年生に教えています。この授業は、包帯法の基本となる被覆包帯法を前期で行い、後期は固定包帯を行います。1年生の初めは包帯を巻き戻すことすら難しかったのが、後期の終わりには、包帯が手になじみ上達している様子が見られます。

卒業研究（池内ゼミ）



池内ゼミでは、主に運動による筋肉の痛みと鎮痛に関する研究、柔道整復領域の治療機器が自律神経機能に及ぼす影響をテーマにしています。教員が研究成果を学会報告するのは当然ですが、本学では、学生も卒業研究の成果について学会や研究会で報告を行っています。

研究テーマと活動



本ユニットの研究の主軸テーマは、運動による筋肉の痛みと鎮痛に関する研究、柔道整復領域の治療機器が自律神経機能に及ぼす影響、包帯固定の実践的教育指導に関する研究、超音波診断装置による生体の観察、柔道整復術に対する筋電図による分析などがあります。各研究グループは、4年生の卒業研究とも連携しゼミ方式ですすめられ、各研究室では、教員と学生が和気あいあいと和らいだ空氣のなかで研究が行われています。



柔道整復師として治療を行うということは、自分で判断して治療を行わなければなりません。私は自分で考えて治療を行う上で根拠となる指標が特に大切だと思います。そして、指標を得るためには知識が必要です。私はこれまで工学に関係する研究に携わって来ました。そして、この工学の“なぜだろうと深く考える習慣”が指標を構築する上で非常に役に立ちます。そのため、この習慣を教育や研究に導入しています。また、講義では治療に関係する工学の基礎を分かりやすく説明するために、身近な例を紹介しています。

「2年生看護技術学内演習の紹介」



2年生アドバイザー 小山敦代(基礎看護学教授)

看護学教育においては、看護実践能力を育成することが大きな柱になっています。看護実践能力の基盤となるのが看護技術です。看護技術は、看護の目的を達成するための手段であり、基本的な方法に対象者の健康状態や場の状況などの条件を加えて、その人に最も適した方法で自立と安全・安楽に実施する必要があります。看護技術を習得するには、関連する知識に加え実際の体験が必要であり、学内での看護技術演習は大きな位置づけを占めています。



習得すべき看護技術は、食事や清潔等の日常生活行動や採血や注射等、治療に伴う基本的な看護技術から成人・老年・小児・母性看護等に必要の援助技術等、たくさんあります。また、お互いが患者・看護師役となり、援助する側とされる側の関係なども体験を通して学びます。特に心身への侵襲を伴う看護技術はシュミレーターや疑似体験ができるような用具を用いて、より臨床場面に近い状況を想定し体験を通して学びます。



(臨床場面では採血等を行う際、手袋をして行いますが、左の写真は指先の感覚が研ぎ澄まされるよう、手袋をせずに練習をしている場面です。)

看護技術の習得には終わりがありません。充実した設備と教員のきめ細やかな指導を受けながら、主体的な体験を通してしっかり看護技術を身につけてほしいと願います。2年生は、3年後期から始まる本格的な臨床実習に向けて、エビランスに基づく、対象にあった“生きた看護技術”を習得すべく、日々真摯に演習に取り組んでいます。



(成人急性期の看護技術演習で、患者さんの早期離床への安全・安楽な援助を学んでいる場面です。)



たには祭 花火大会

第33回 たには祭

平成22年10月16日(土)～17日(日)、秋晴れのキャンパスで「第33回たには祭」を開催いたしました。今年は、楽しく笑うと書いて「楽笑」というテーマで、来ていただいた方に楽しく笑ってもらうことを目的に準備を進め、実行委員も同じように楽しく笑える、また楽しい時だけではなく、苦しい時や辛い時、悲しい時も一緒にそれを乗り越えて笑うことのできる仲間に出会える「たには祭」にしたいという願いを込めました。今年度は、早くより実行委員会を立上げ、各学部の1～2年生が中心となり、成功に向けて日々頑張って活動を行ない、夏休み明けからは慌しい毎日を送りました。正直、このまま無事にたには祭を終える事ができるかどうか、と大変不安なところもありました。

今年は、教職員バンドが15日(金)の前夜祭で登場してメインステージを大いに盛り上げました。恒例の花火大会には、多くの地元住民の方々が見学に来られ、地域に密着したお祭りになりつつあります。また、卒業生の方々も沢山来ていただき、恩師とのひと時を満喫していました。

平成23年度も10月15日(土)～16日(日)の日程で、皆様の心に残るような大学祭にできるよう、実行委員会一同団結し努力していきますので、ご支援ご協力の程、よろしく願いいたします。



名誉理事長

故 谷口健藏先生「お別れの会」



昨年12月12日享年91歳をもって逝去された 本学院 名誉理事長 故 谷口健藏先生「お別れの会」を、1月30日京都エミナース内「明治アンバーサラーホール」において行いました。

故 谷口名誉理事長は、理事長在職時に、我が国で初めてとなる4年制の鍼灸大学「明治鍼灸大学(現:明治国際医療大学)」の開学を果たし、更には大学附属病院や大学院修士・博士課程を開設するなど、天賦の先見性と卓越した指導力、極めて旺盛な開拓者精神によって、日本の鍼灸師教育制度に改革の道を拓きました。また、全国規模の公益団体設立にも尽力し、日本鍼灸師会や東洋療法学校協会において会長職を歴任するなど、広く日本の鍼灸界に貢献しました。

「お別れの会」当日は、参列者全員による黙祷を捧げたのち、主催者である本学院 中川理事長より、故人のご遺徳とご功績を偲ぶとともに学院の更なる発展に向けた思いを込めて「お別れのことば」を、また小原理事長から永年にわたるご教導に対する感謝の念を表した追悼の辞が述べられました。そして、地元南丹市の佐々木市長様、(社)日本鍼灸師会 相馬会長様、(社)全日本鍼灸学会 後藤会長様、(社)東洋療法学校協会 杉山会長様から、故人との思い出を織り交ぜた心温まる追悼のお言葉を頂戴し、全国各地からご参列いただいた総勢570名のご献花をいただくなど、故人を偲ぶ「お別れの会」は大変盛大な会となりました。

鍼灸・保健医療学部合同 就職相談会開催

昨年12月19日(日)に姉妹校である明治東洋医学院専門学校と合同の就職相談会を開催しました。当日は新卒者の採用を計画されている53の事業所に参加いただき、就職希望者89名に対しブース形式で個別相談が行われました。なお、事業所の人事担当者には本学のOB・OGも多く、参加者達は事業の内容や求められる人材像等に熱心に耳を傾けていました。



看護学生 奨学金説明会開催

去る2月6日(日)、ホテル京都エミナースにおいて看護学部在学生および入学予定者等を対象とした看護学生奨学金説明会を開催しました。

本学では、看護職者として将来の進路を考えるため、医療機関の採用担当者にお集まりいただき、このような個別相談会を定期的に開催しています。今回は40事業所と入学予定者・ご父母等112名が一堂に会し、それぞれの就業環境および奨学金制度等に関する質疑応答が行われ、参加者達は複数のブースを積極的に訪問していました。



第20回 福知山マラソンに参加

鍼灸学部
基礎鍼灸学教室 日野こころ 助教

「先生、一緒にマラソンを走りましょう!」18歳の笑顔で始まった33歳の無謀な挑戦。スポーツ全般を得意とする私ですが・・・まさかの42.195km。なぜこの話を受けたのかは未だに不思議です。当日、学生数人を車に乗せ、会場まで走る中、18歳男子というのはこれほど元気なものか?嫌だと言いながらはしゃぐ彼らが私には理解出来ませんでした。隣では「学生と教員と卒業生のコラボレーション!!」との理由で巻き添えにした主人が苦笑い。30歳の彼はどちらかといえば文系タイプ。「(日野)フルマラソン走ることになったから・・・」「(主人)大変!がんばって。」「(日野)あなたもね。」と、さり気ない勧誘で巻き込みました(笑)。夫婦の目標は20km走破。リタイアする気満々の参加でした。まずはペースランナーを探して抜き取り、10km、15kmと走りました。徐々にしんどくなってくるも20km突破!その後、トップ集団のランナーを始め、学生たちともすれ違い、エールを送りました。「みんな凄いなあ〜。」と感動していると、ペースランナーが・・・あれ?いつの間にか抜かれている!?!いいペースで走っているつもりだったのでショックでした。そしてそのうち、普段治療をしている

世代のおばあちゃんランナーに抜かれ、走るより歩く距離が長くなっていきました。それでも30kmを突破するとゴールしたい!という気持ちが強くなり、「学生たちはもうゴールしたかな。」痛い足を引きずりながら意地で最後の関門を突破!あとは歩き続けてもゴールは出来ます。学生の1人とも合流し3人でゴールを目指しました。ゴール直前では「先生〜頑張ってる。」と6人の笑顔。疲れも吹き飛ばす元気さです。最後は皆で写真を撮りました。見て分かる通り、笑顔も引きつる疲労と足の痛み。若い学生たちもさすがに「痛い!」を連呼しますが、帰り道も後部座席でにぎやかでした。次の日は試験が待っていました。「とりあえず寝て、早起きして勉強する」とすでに勉強モードに切り替わっていることが嬉しく、頼もしく思いました。後日小さな打ち上げをし、彼らの奮闘を称えました。そこには明らかに成長した7人の顔がありました。もちろん私自身も成長したと思います。夫婦の絆、そして学生との絆が深まったと信じています。楽しい思い出、笑い話ができました。誘ってくれて本当にありがとう。ただし、次のマラソン参加は別の先生に譲りたいと思います。



職場見学・職業体験実施

進路に対する意識を高め、4年次での就職活動にスムーズに移行することを目的として、鍼灸学部・保健医療学部の3年生139名を対象とした「職場見学・職業体験」を実施します。学生達を受け入れていただける事業所はすべて本学の卒業生で、100人以上の先輩方に協力いただいています。掲示中の「事業所情報カード」には、励ましのメッセージを書

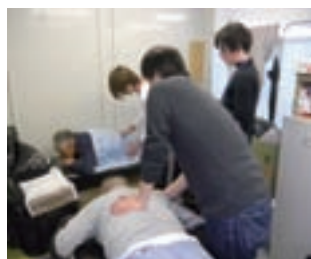


事業所情報カードを閲覧する学生達

てください方も多く、学生達は先輩方を信頼して見学先を決めています。この職場見学・職業体験に参加した学生達は、見学先での温かく厳しい指導の下、将来の目標に向け、今後の学業にも意義を見出していくのではないのでしょうか。なお、この取り組みはインターンシップ制度創設に向けた先行事業として位置づけ、今後は1〜2年次からの実施を目指します。

スキー実習

兵庫県豊岡市万場スキー場にて、保健医療学部の「スポーツ外傷応急処置実習」が行われました。骨折・脱臼・打撲・捻挫・挫傷などの応急処置の他、ストレッチングやスポーツケアも行います。学生達は、現場での実習に緊張しながらも、空き時間には雪山を楽しみながら、有意義な時間を過ごしました。



第14回 学長杯野球大会

例年、春と秋の年2回開催の「学長杯野球大会」が昨年11月14日(日)京丹波町グリーンランドみずほ多目的グラウンドで開催されました。今大会は、鍼灸・保健医療・看護の各学部に加え、教職員・大学院生チームの計9チームで争われ、各試合とも見応えのある熱戦が繰り広げられました。最終戦となる決勝は、鍼灸学部の先輩・後輩対決となり、互いの意地がぶつかり合う好ゲームの結果、2年生チームが見事優勝を掴み取りました。なお、優勝した鍼灸学部2年生チームは、3試合で失点わずか1という好成績を残しました。

優勝 鍼灸学部2年生 準優勝 鍼灸学部3年生
3位 鍼灸学部4年生・保健医療学部3年生

附属病院内で演劇部が上演

昨年8月13日(金)、入院中の患者さんを元気づけようと、演劇部による公演が本学附属病院内で行われました。患者さんや看護師さん達が鑑賞する中、部員達は、無欲な男と願いを叶えなければならない精霊とのやり取りを描いた劇を披露しました。病院での初公演は、お年寄りからも好評で、労いの言葉に学生達は新たなやりがいを見出していました。なお、この模様は8月25日の京都新聞(丹波版)でも紹介されました。

成績優秀者 各賞発表

このたびの卒業予定者の中から成績優秀者に贈られる各賞が次のとおり選考されました。受賞者には、3月15日(火)の卒業式・学位授与式において各々表彰状と記念品が贈られます。

理事長賞	窪田 靖人 (鍼灸学部)
学長賞	段本 学志 (鍼灸学部)
	有田 弘明 (保健医療学部)
	栗屋 明子 (看護学部)
(社)全日本鍼灸学会会長表彰	佐藤 耕基 (鍼灸学部)
(社)日本鍼灸師会賞	古田 大河 (鍼灸学部)
(社)日本柔道整復接骨学会賞	時實 恭平 (保健医療学部)
(社)日本柔道整復師会会長賞	松田 直人 (保健医療学部)

明治国際医療大学

行事予定 4/1～7/31

日 程		行 事
4月	1日(金)	オリエンテーション(鍼灸3・4年生、保健4年生)
	4日(月)	オリエンテーション(鍼灸2～4年生、保健2～4年生、看護2～4年生)
	4日(月)～7日(木)	新入生オリエンテーション(全学部)
	5日(火)	入学式
	22日(金)～23日(土)	新入生フレッシュマンキャンプ
5月	2日(月)	特別休講(全学部・全学年)
	6日(金)	特別休講(全学部・全学年)
7月	21日(木)～29日(金)	前期末試験(保健3・4年生)
	21日(木)～8月3日(水)	前期末試験(鍼灸2～4年生、保健2年生)
	25日(月)～8月5日(金)	前期末試験(鍼灸1年生、保健1年生、看護1～3年生)



附属統合医療センターのご案内

医師 教授 センター長 **今西 二郎** 内科、漢方内科：日本東洋医学会漢方専門医、指導医、日本温泉気候物理学会温泉療法医、日本臨床栄養協会サプリメントアドバイザー、インフェクションコントロールドクター、日本医師会認定産業医
准教授 **田中 邦雄** 内科、漢方内科、心療内科：日本東洋医学会漢方専門医、指導医、精神保健指定医、日本精神神経学会専門医

洛西クリニック

内科・漢方内科・心療内科

- 睡眠外来(今西)
- 健康診断
- 疲労外来(今西)
- プチドック
- こころクリニック(田中)
- 温泉療法
- 心理カウンセリング
- サプリメント・カウンセリング

診察日・時間 ※予約制

	月	火	水	木	金	土
午前	○	○	○	○	○	○
午後	○	○	休診	○	○	休診

午前 9:00～12:00 午後 1:00～4:00 休診日：日曜・祝日

洛西鍼灸・柔道整復治療所

施術内容

- 鍼灸
- マッサージ
- アロマセラピー

診察日・時間 ※予約制

	月	火	水	木	金	土
午前	○	○	○	○	○	○
午後	○	○	休診	○	○	休診

午前 9:00～12:00 午後 1:00～4:00 休診日：日曜・祝日

公開講座 (平成22年度 実施)

本学では、この1年間に以下のとおり公開講座を実施しました。次年度においても同様に計画し、随時ホームページ等で案内しますので、是非ともご参加ください。(無料)

京カレッジ市民教養講座「グッドエイジングに向けて」

- 6月27日(日) — キャンパスプラザ京都(京都市下京区)
「元気で歩こう! ツボ療法を活用した膝痛の克服法」 鍼灸学部 越智秀樹(准教授)
- 8月29日(日) — キャンパスプラザ京都(京都市下京区)
「危険なトレーニングと間違った常識」 保健医療学部 長尾淳彦(教授)、煙山奨也(助教)
- 10月31日(日) — キャンパスプラザ京都(京都市下京区)
「養生訓に学ぶ日常生活」 看護学部 小山敦代(教授)、西山ゆかり(准教授)、中島小乃美(講師)
岡田朱民(助教)、梶谷康子(助手)、中島真由美(助手)

鍼灸学部市民公開講座

- 10月24日(日) — T'sフラット(東京都渋谷区)
「肩こり～肩のこらない肩こりの話」 鍼灸学部 矢野忠(教授)
- 11月14日(日) — 京都エミナース(京都市西京区)
「みんな地球に生きるひと～アグネスが見つめた生命～」 アグネスチャン
- 11月27日(土) — 松風苑(京都府京丹後市)
「腰痛の基礎知識と家庭でできるツボ療法・体操療法」 鍼灸学部 越智秀樹(准教授)
水沼国男(講師)
- 3月27日(日) 予定 — 南丹市国際交流会館(京都府南丹市)
「眼精疲労の知識と家庭でできるツボ療法」 木村健一(助教)、鶴浩之(講師) 他

附属統合医療センター市民公開健康講座

- 1月22日(土) — 京都エミナース(京都市西京区)
「中高齢者のための、いつでも運動、どこでも運動」
保健医療学部 長尾淳彦(教授)
- 2月5日(土) — 京都エミナース(京都市西京区)
「家庭で役立つツボ療法」 鍼灸学部 今井賢治(准教授)
- 2月19日(土) — 京都エミナース(京都市西京区)
「アロマセラピーを楽しもう」 附属統合医療センター 岸田聡子(非常勤講師)

特別講演会 他

- 8月28日(土) — キャンパスプラザ京都(京都市下京区)
看護学部特別講演会
「これからの看護～看護独自の補完代替療法に挑戦」
ゴールデンウェスト大学看護学部 橋本ルミ(教授)
- 10月15日(金) — 本学
宇宙鍼灸科学研究会キックオフセミナー
宇宙航空研究開発機構(JAXA)、鍼灸学部 今井賢治(准教授) 他

編集後記

春の兆しが見られるようになり、雪の多い寒い冬が終わりました。大学情報誌の2号をお届けします。昨秋の大きなニュースは、洛西キャンパスに統合医療センターがひらかれ診療が始まりました。現代医学の2名の医師をはじめとして、漢方外来、アロマセラピーや鍼灸医療のスタッフが活躍しています。今後、柔道整復や看護の特長を活かした診療も期待されます。また、本学の学生が統合医療を肌で感じられる実習施設として発展するでしょう。開所式で講演された温泉療法も展開されたら、と期待しています。さらに、4月から鍼灸学部大学院に通信制が開設されます。この春、全国から院生がスクーリングに参加する姿がみられるようになるでしょう。

(文責：田中忠蔵)

当大学だよりに関するご意見ご要望および記事のご投稿は、大学事務オフィス 入試・広報チームまでお願いします。



2008年4月 明治鍼灸大学から改称

鍼灸学部[鍼灸学科] * 保健医療学部[柔道整復学科] * 看護学部[看護学科] * 大学院[鍼灸学研究科]

〒629-0392 京都府南丹市日吉町 TEL 0771-72-1181 FAX 0771-72-0326

E-mail exam@meiji-u.ac.jp 携帯サイト www.meiji-u.ac.jp/i/



財団法人日本高等教育評価機構より
大学評価基準を
満たしていると認定
されました。

2008.4～2015.3